

## 平成22年のキノコを振り返って

山川 続

### (1) ミミブサタケ (ベニチャワソウタケ科ミミブサタケ属)

場 所：雲仙市小浜町雲仙白雲の池

期 日：平成22年7月19日

ミミブサタケとの初めての出会いは、7月17日(土)・18日(日)に行われた、熊本きのこ会第373回例会「長沢栄史先生きのこ講演会および採集観察会」に参加したときです。2日目のくじゅう黒岳での同定会の時、並べてあるのを見て、おもしろい形をしたキノコだなと思い、ブナ林といい、やっぱり長崎とは違う環境なんだなあとあらためて思いました。

翌日の19日、白雲の池を一周して駐車場へ戻るとき、いつも見ている倒木が重なっているところ(観察地点a)を見ると、倒木の脇から変わったものが生えているを見つけました。蛇が隠れていそうなので、今まで近づいたことはなかったんですが、近づいて確認すると、昨日見たミミブサタケでした。「えっ、ここに!」と、びっくりしました。他にもないかと奥(観察地点b)へ進むと、もう一株見つけました。長沢先生の話では、土中深くに菌核を作っているということを思い出し、掘りました。でも、小さいスコップでは無理で、途中で切れてしまいました。菌核は残っているから、来年も発生してくれることを期待しています。子実体に少し触れると、「シューッ」と音をたて胞子を噴出させるそうなので、楽しみです。毎日観察しないので、身近な場所でも、このような未発見のキノコがまだまだあるんだと思います。

近縁種に、肉が薄く、胞子の大きさが倍近くもあり両端が突出しているオオミノミミブサタケがある。



奥の林内(b)で見つけたミミブサタケ



×：観察地点



倒木脇(a)のミミブサタケ



途中でちぎれた茎と子のう盤

ミミブサタケ	オオミノミミブサタケ
・10～20個のうさぎの耳房状の子のう盤 ・高さ5～7cm ・子のう胞子は扁豆形で表面に縦線条があるが不明瞭	・2～6個のうさぎの耳房状の子のう盤 ・高さ6～15cm ・子のう胞子は扁豆形で表面に縦線条は明瞭

※出典：「山溪カラー名鑑 日本のきのこ」(山と溪谷社)